

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は前年同月比で約8%増加となる見通しで、堅調である。客層の変化が鮮明になっており、前年まで売上の柱であった中国からのインバウンド需要が約半分に激減したが、フランスやドイツなど欧州、及び台湾からのインバウンドが数倍に増加し、その穴を完全に埋めている。また、日本人観光客による高額商材の購入も安定しており、特定の国やイベントに売上が左右されなくなっている。インバウンドの質の変化と国内需要の底堅さが、景気を押し上げている。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	販売量の動き	・3か月前と比べると緩やかな改善傾向がみられる。単価は高くても買う価値があると客が認めた物や品質の高い商材についても、一定数の動きが見られるようになっている。
	○	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・冬場の天候不順から抜け出したただけだが、やや良くなっている。来客数は前年並みでもコスト増加が経営を圧迫している。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気候に影響されやすいアパレル業において、春らしい落ち着いた天候は売上を安定させていると考える。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・新たな省エネ基準がメディアにも取り上げられ、エアコンの販売量が伸びている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・施設のリニューアルに伴い商圏が拡大し、広域から集客できるようになったことで来客数が増加している。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・経済状況に対する不安から物価が上がっており、年度末前後の消費動向を心配していたが、直近の動向は大きく変わることなく予想以上に客が来店している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月の前半は天候に恵まれ、多くの人が花見で地元の観光名所に集まり、観光客も増えた。また、複数のクルーズ船が寄港し、多くの人が中心部に出掛けたため、タクシー利用が多く、良い状況である。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数はあるが、物価高や世界情勢の不安定さなどの影響か、前向きな話題を客から聞かない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・春の観光シーズンが幕開けとなり、中旬以降は国内外からの観光客の姿が商店街に目立ち始め、飲食店やブランド品を扱う洋服店や宝飾店がにぎわっている。隣接する百貨店では下旬から食品イベントがあり、近隣の駐車場も混雑している。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・世界情勢が不透明ではあるものの、株高の影響で富裕層においては輸入時計や絵画など高額商材の購買需要が旺盛であり、好調に推移している。インバウンドによる売上も中国以外の国が好調であり、前々年実績には届かないものの前年実績は超える見込みである。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比べて減少している。商品単価の上昇から売上金額は前年並みを維持しているが、フランチャイズビジネスとしては本部にロイヤリティを支払うため、値上げ分が全て利益とはならない。売上は維持しているが経費は増加しており、全体としては利益が減少している。来客数も新型コロナウイルス感染症発生前などと比べて3分の2程度となっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・石油関連の値上げが続いており、購買の心理的な負担になっている。
	□	家電量販店（本部）	来客数の動き	・全体としては堅調な水準である。新たな省エネ基準の改定を控え、現行基準のエアコンを購入したいという特需的な動きが広がっている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量がほとんど変わらない状況が続いている。新車の購入に対して慎重な様子は変わらない。
	□	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車、中古車共に前年実績とほぼ同水準に収まり、客の購入意欲にも大きな変化がない。
□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・新車需要は変わらずに推移している。	

□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・不安定な世界情勢が続いており、耐久財への消費は後回しになっている感じが否めない。来客数も減っている。
□	観光型旅館(経 理)	それ以外	・2024年に発生した能登半島地震以降、休業状態が続いており、再開まではまだかなりの期間を要する。
□	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門は引き続きインバウンドが堅調で、宴会部門は低調である。
□	通信会社(職 員)	お客様の様子	・客からの問合せ内容に特に変化がない。
□	通信会社(役 員)	販売量の動き	・通信、放送サービス共に獲得契約数が前年同期と比べて同様の数字で推移している。
□	その他レジャー 施設 [スポーツ クラブ] (経営 者)	来客数の動き	・中東情勢の影響により物価が上昇している。
▲	一般小売店 [精 肉] (店長)	単価の動き	・肉屋では牛肉の売上が余り芳しくなく、豚肉や鶏肉にシフトしている様子で、客単価が上がらない状況が顕著である。
▲	百貨店 (販売促 進担当)	お客様の様子	・終息が見えないウクライナ情勢や中東情勢など原油や食料品の高騰で世界経済の根幹が不安定で、先行きが見通せない状況であり、消費行動により慎重さがみられる。
▲	百貨店 (販売担 当)	お客様の様子	・4月に入り急に状況が悪化している。来客数や購買数の減少に加えて、低単価商材を探したり、比較検討するために欲しくても購入を先送りしたり、客が何も買わないという行動が増えている。ゴールデンウィーク前の外出に関する購入も非常に少ない。一方、買いやすい価格で話題性のある商材の動きは良い。また、一部の客においては、ラグジュアリー商材の消費が活発である。
▲	スーパー (総務 担当)	それ以外	・原油価格の高騰に伴い、生活必需品が値上がりしている。
▲	スーパー (役 員)	単価の動き	・中東情勢の影響が出始めている。消耗品などを中心に大幅な値上げが5月から始まる。
▲	コンビニ (店 長)	来客数の動き	・前年と比べ来客数が振るわない。コンビニの割高感もあり、近隣競合店に後れを取っている。店舗の売場改善等の対策は実施しているが、外部環境に依存する部分も大きいと実感している。
▲	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・物価の上昇が続いている。商品単価の上昇で売上をカバーしているが、来客数が減少している。
▲	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・平日の人の動きが特に悪い。
▲	観光型旅館(経 営者)	それ以外	・中東情勢による原油不足や、原油価格高騰などの影響による経費の増加を不安視している。
▲	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・国内の個人宿泊客が3か月連続で前年割れとなっている。
▲	旅行代理店 (従 業員)	お客様の様子	・三陸沖を震源とする地震の影響などで団体旅行のキャンセルが発生している。
▲	通信会社 (役 員)	それ以外	・半導体不足により、サービス提供に必要な端末が購入できないケースが出てきている。また、中東情勢の影響が長期化し、端末や工事費等の価格が上昇してきている。
▲	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・物価高の影響もあり、個人客を中心に来客数が前年同月と比べてマイナスとなっている。
▲	競輪場 (職員)	販売量の動き	・記念競輪等の車券売上収入が前月に続いて下落している。石油製品などの物資不足による先行きの不透明感が影響している。
▲	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・金利の上昇、中東情勢の影響による資材不足や不確定な納期などで、受注及び納期共に厳しい状況になってきている。住宅価格の上昇も影響している。
▲	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・建築資材の価格上昇が止まる見通しが立たない状況が続いている。
▲	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・中東情勢の急激な悪化による物価上昇を懸念し、買い控えの動きが一部でみられる。

	×	商店街（代表者）	単価の動き	・少し人出があった日でも、売上を集計すると満足のいくものではない。原油価格高騰の影響により商品価格は上がっているが、客単価は落ちている。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	それ以外	・世の中の情勢が全てであり、悪くなっている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・終わりのない物価高や中東情勢の影響により、し好みである酒類は消費者にとって優先順位が低い状態である。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・駅前周辺の居酒屋などは、相変わらず若い人が多く忙しいと聞いているが、客の年齢層が高い当店は厳しい状況である。景気が悪くなっているという話や、世界情勢の影響で物が入らなくなってきたりなど、厳しい話を客からは聞いている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車載関連部品の受注はほぼ予定どおりで好調である。産業機器関連の受注は新型コロナウイルス発生前の水準に戻り、それ以上の受注が入っている製品もある。民生関連にも若干の動きが出ており、売上は上昇傾向となっている。
	○	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き販売金額は伸びているが、前期と比べて伸び率はやや低下している。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震での被災により多くの取引を失い、3回目の春の行楽シーズンを迎えたが、本来この時季に受注が伸びる業務用商材が低迷し、いまだ震災前の売上を大きく下回って推移している。さらに、中東情勢によるナフサ由来の資材価格の急激な上昇も重なり、収支は非常に厳しい状況にある。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらずに推移している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前となる1月は年初で前年からの繰越工事が多かったが、4月は令和8年度完成の大型工事の手持ちがあり、人余りにはなっていない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響は否めないが、いまだ各社の業績まで影響していないため、引き続き好調に推移している。
	□	司法書士	取引先の様子	・例年より高い価格帯の新築住宅が増えているが、数量は例年より少ないとみている。
	▲	プラスチック製品製造業（広報）	それ以外	・中東情勢による原油調達問題が影響している。樹脂の原材料調達に制限が掛かり、生産量が落ち込んでいる。
	▲	輸送業（管理会計担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油を始めとする仕入価格の高騰とともに供給量の制限も掛かりつつある。
	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・中東情勢の不透明感からエネルギー価格が高騰し、各種コストが上振れしていることに加え、プラスチックや溶液等の石油由来の製品が不足している。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事が少ない業者と、春先に少し動きが出たという業者が半々の状況である。
	▲	税理士（所長）	取引先の様子	・中東情勢の影響により資材が入ってこないため、建設業や塗装業及び製造業の稼働が止まり始めている。輸送費や包装材の価格高騰により、卸売業や小売業でも厳しい話しか聞かない。
		×	繊維工業（総括）	それ以外
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*

(北陸)	□	民間職業紹介機関 (経営者)	求人数の動き	・業種を問わず大きな変化はみられない。人手不足や原材料価格が高騰している状況が変わらず、業績にも影響を与えているという声を聞く。中小企業では新規採用からキャリア採用にシフトする傾向がみられ、中小企業における強い人手不足感がある傾向は変わらない。
	▲	人材派遣会社 (役員)	採用者数の動き	・派遣している人員が数人減っている。
	▲	新聞社 [求人広告] (営業)	それ以外	・中東情勢の影響による燃料価格の高騰が、多種多様な業種の経営を圧迫しており、出口がみえない状況に企業は萎縮している。
	×	—	—	—